



昭和御大礼掛図 第一図「御即位礼紫宸殿の儀」

【表具】885mm×650mm

【本紙】805mm×540mm

前号では明治天皇の即位の儀に関する教育掛図を紹介したが、今月はそれに引き続いて昭和天皇の即位の儀礼に関するものを取りあげたい。

1926年(大正15)12月25日、父である大正天皇の崩御(死去)をうけ、^{ひろひと せんそ}裕仁が践祚した(昭和天皇)。その翌年2月7日には大正天皇の大喪が執り行われ、^{りょうあん}諒闇(天皇・太皇太后・皇太后の崩御に伴う服喪期間)を終えた1928年(昭和3)11月10日に、昭和天皇の即位の礼が京都御所にて挙行された(天皇は皇后とともに11月6日に馬車で東京から京都に発った)。本図は、即位の礼のハイライトにあたる「紫宸殿の儀」を描いたものである。紫宸殿とは御所の正殿であり、紫宸殿の儀は天皇が自らの即位を国の内外に宣明する儀式である。紫宸殿の中央には階段が設置されており、殿上には大正大礼時に作成されたものに修理を加えた高御座(天皇の玉座)、御帳台(皇后の玉座)がしつらえられ、男性皇族(皇太子・親王)と内閣総理大臣や大礼使(即位の儀などの事務を担当する官)の長官らが高御座の左側に、女性皇族(親王妃・王妃)が御帳台の右側に並んだ。また、中庭には紫宸殿の方から大・中・小のサイズの錦旗が並び、太刀、弓、^{ほこ}棒、^{しやう}楯、^{いぎふつ}鉦、^{たい}鼓などの威儀物と呼ばれる武器を持つ威儀物捧持者が整列している。

※附属図書館で展示しています。